

図書館員のひみつの本棚 第130回

今月はとっても楽しい昔ばなしです。

『すんだことはすんだこと または家のしごとがしたくなかったおやじさんのお話』
ワンダ・ガアグ／再話 佐々木 マキ／訳 福音館書店 1991年 1080円

<お勧め年齢>

乳幼児★★☆ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

おやじさんの名前はフリッツル。リージーというおかみさんと、キンドリという赤ちゃん、スピッツという犬と、たくさんの動物たちといっしょに住んでいました。

おやじさんの仕事は、畑をたがやすのら仕事。おかみさんは、家の仕事と、赤ちゃんや動物の世話をしていました。

ある日、おやじさんが、「おかみさんの仕事のほうがらくじゃないか」と言ったことで、二人はしごとをとりかえっこすることになります。おかみさんがのら仕事に出て、おやじさんが家の仕事をするのです。

次の朝、おかみさんがのら仕事に出かけると、おやじさんは朝ごはんをソーセージを焼きはじめました。そこまではよかったのですが…。のら仕事から帰ってきたおかみさんが見たのは、スープ鍋に入って手足をバタバタさせているおやじさん。おやじさんの身にいったい何がおきたのでしょうか！

<子どもに手渡す時のポイント>

「男の仕事と女の仕事」というと、ジェンダー視点の物語にもみえますが、そんなに難しいことを考えずに、ただただ、お腹をかかえて笑ってしまう昔話です。ストーリーテリングで語ると、子どもたちは大笑いです。30分くらいかかるのですが、ただ、ただ、笑っているうちに終わってしまいます。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか